

平成30年度 学校評価の「結果」と「今後に向けて」

すべては 子ども達のために



保護者及び地域の皆様方には、本校の教育活動に日頃よりご理解とご協力をいただきありがとうございます。

学校評価では大変お世話になりました。この学校評価は、評価すること自体が目的ではなく、子ども達の学校生活をより生き生きと充実したものにするために、学校が何をすべきかを明らかにするためのものです。私たち教職員一同、結果を真摯に受け止め、学校改善につなげることが大切だと考えております。

A～D の 4 段階で評価していただきましたが、これは教職員一人ひとりの日々の取組の一つの成果が数値として表れたものとも考えられます。教師が変われば授業が変わる。授業が変われば子どもが変わる。教職員の自己改善にもつなげていきたいと考えます。

7月の評価では、80%以上のプラス評価（A + B 評価）をいたいたい項目が、保護者・生徒ともに18項目中17項目ありました。単に、適合度の数値に一喜一憂するのではなく、数値の低い項目については、学校として、具体的な手立てを考え、改善に向け教職員一丸となって取り組み、学校改善につなげていきたいと考えます。

子ども達の健やかな成長には、教職員と保護者、地域の皆様が手を携えて、子どもたちに係わっていくことが重要です。今後とも鬼石中学校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

2018.08.30

地域・保護者から信頼される学校を目指して

藤岡市立鬼石中学校

平成30年度 学校評価アンケート集計結果(7月実施)

		質問項目	評価者	適合度(%) A+B評価
家庭との連携	1	ホームページ、学校だより、学年・学級通信、授業参観・保護者会などを通じて、学校は、教育方針や生徒の活動の様子を家庭に分かりやすく伝えている。	保護者	95
		学校は、ホームページ、学校だより、学年・学級通信、授業参観・保護者会などを通じて、教育方針や生徒の活動の様子を家庭に分かりやすく伝えている。	生徒	91
	2	学校は、授業参観や学校・学年行事等を通じて、保護者・地域の方々に積極的な学校公開を心がけている。	保護者	99
		学校は、授業参観や学校・学年行事等を通じて、保護者・地域のみなさんに積極的に学校を開いています。	生徒	92
	3	学校は、スクールカウンセラーとの相談や保護者・生徒との三者面談、保護者との二者面談など、保護者が相談できる機会を設けている。	保護者	94
		学校は、スクールカウンセラーとの相談や保護者・生徒との三者面談、保護者との二者面談など、保護者が相談できる機会をつくる。	生徒	89
項目の多くの人が90%を超える高い評価をいただいていることは大変ありがたいことです。昨年度に引き続き「開かれた学校経営」を推進するための一つの手段としてのホームページの充実や学校公開など学校に来校する機会を提供していることに非常に高い評価をいただいています。これは、私たち教職員の今後の一層のやる気につながります。今後も、子ども達の頑張る姿を中心に学校教育の様々なシーンをWebページを通じて紹介していくとともに、保護者や地域の皆さんのが気楽な気持ちで来校できる機会提供に努め、学校と保護者・地域の三位一体となった教育活動をさらに充実させていきたいと考えます。				
学力向上	1	学校は、授業で今日のめあてを提示し、知識・技能の習得とその知識を活用した考える力や判断力、表現力を目指した授業を行っている。	保護者	88
		先生は、授業の始めに今日のめあてを提示し、知識や技能を身につけたり、考える力や判断力、表現力が身につくよう指導してくれる。	生徒	88
	2	学校は、朝学習、漢字・計算コンテスト、英語のスペリングコンテスト、定期テストと授業を連動させながら、基礎基本の定着に努めている。	保護者	92
		先生は、朝学習、漢字や計算コンテスト、英語のスペリングコンテスト、定期テストと授業を連動させながら、基礎基本が身につくよう指導してくれる。	生徒	88
	3	学校は、知識だけでなく、学び方や学習意欲、やる気を大切にした授業に努め、一人一人を認め、褒め、伸ばすよう指導している。	保護者	80
		先生は、知識だけでなく、学び方や学習意欲、やる気を大切にした授業を工夫してくれ、一人一人のよいところを認め、褒め、伸ばすよう指導してくれる。	生徒	82
いずれの項目を目標値である80%以上のプラス評価をいただいている。藤岡市全体で取り組んでいる、授業の最初にめあてを提示し、子どもの主体的・協働的な学びを取り入れ、授業の終わりにはめあてを踏まえた振り返りをする。という、基本的な授業の流れが定着しつつあり、子どもの中にもそれが浸透しているようです。基礎学力の定着については、各種のコンテストや定期テストと連動が図られていると評価をいただいている。ただ、生徒にとって最も大切な知識や技能の習得に関し「学習意欲」や「やる気」、「学び方」などを意識し、基礎基本の定着、学力向上を目指した授業づくりへの意識がやや弱いという課題が明確になりました。教職員が、よさを認め、褒め、伸ばすこと今まで以上に心がけ、意識を継続して学習指導に臨むとともに、校内研修等でも研修し実践を積んでいきたいと考えます。				
豊かな心の育成	1	学校は、「挨拶」の大切さを教え、すすんで挨拶ができるよう指導している。	保護者	95
		先生は、「あいさつ」の大切さを教えてくれ、すすんであいさつができるよう指導してくれる。	生徒	88
	2	学校は、授業だけでなく、学校行事や生徒会活動、部活動などを通じて、協力や思いやり、目標に向かって努力する心や態度などの育成に努めている。	保護者	92
		先生は、授業だけでなく、学校行事や生徒会活動、部活動などを通じて、協力や思いやり、目標に向かって努力する心や態度などを身につけさせようと指導してくれる。	生徒	94
	3	学校は、生活ノートや学校生活アンケート、行動観察などで、気になる生徒への声かけや相談の機会をつくり、子どもに寄り添い、不安や悩みの解消に努めている。	保護者	79
		先生は、生活ノートや学校生活アンケート、私たちの行動を見て、気になったときに声をかけてくれ、私たちの不安や悩みが軽くなるよう、相談する時間をつくる。	生徒	78
4	学校は、道徳の授業や人権集中学習を行ったりするなど、道徳教育や人権教育に力を入れ、いじめのない学校をつくろうとしている。	保護者	85	
		先生は、道徳の授業や人権集中学習を行ったりして、道徳教育や人権教育に力を入れ、いじめのない学校をつくろうとしている。	生徒	88
目標値である80%以上のプラス評価をいただいている項目とわざかではありますですが目標値に満たなかつた項目が出てしましました。生徒への声かけの機会を増やしたり、気楽に生徒が相談できる雰囲気をつくるべく教職員一同努力していきます。今以上に生徒に目を向け、さらに「子どもに寄り添い、不安や悩みの解消」につなげるための意図的な声かけや機会をとらえたチャンス相談の機会をつくりたり、時間をやり繰りし、子どもに向き合う時間をつくり出すよう努めたいと考えます。				

健 康 ・ 安 全	1	学校は、生活習慣チェックや歯の出前講座を実施し、基本的な生活習慣づくりや歯の健康について、子どもの意識を高めようとしている。	保護者	96
	2	先生は、生活習慣チェックや歯の出前講座を実施して、基本的な生活習慣づくりや歯の健康について、私たちの健康への意識を高めようとしている。	生徒	96
	3	学校は、不審者への対応、110番通報訓練など、避難訓練や交通安全指導、情報モラルに関する指導を通じて、自分の命は自分で守れるよう、安全への意識を高めるよう指導している。	保護者	90
	4	先生は、不審者への対応、110番通報訓練など、避難訓練や交通安全指導、情報モラルに関する指導を通じて、自分の命は自分で守れるよう、安全への意識を高めるよう指導してくれる。	生徒	94
	5	学校は、新1年生の自転車講習会や入学後の自転車安全点検、交通安全に関する指導などを通じて、自分の命は自分で守れるよう、安全への意識を高める指導をしている。	保護者	94
	6	先生は、新1年生の自転車講習会や入学後の自転車安全点検、交通安全に関する指導などを行い、自分の命は自分で守れるよう、私たちの安全への意識が高まるよう指導してくれる。	生徒	93
	7	学校は、ノーメディア読書デーや情報モラル・ネットマナー、携帯(スマホ)やインターネットとのつきあい方などの指導を通じて、危機意識を高め、安心・安全に生活できる力をつけようとしている。	保護者	89
	8	先生は、ノーメディア読書デーや情報モラル・ネットマナー、携帯(スマホ)やインターネットとのつきあい方などの指導を通じて、私たちの危機意識を高め、安心・安全に生活できる力をつけようとしている。	生徒	92
多くの項目が90%を超える高い評価をいただいていることは大変ありがたいことです。学校は、安全・安心な場所でなくてはならず、子ども達の安全への意識高揚と危険を回避する力や態度の育成に今後も学校生活の様々な機会を通じて努めて参ります。また、4の項目の中にある「携帯(スマホ)」を使った友人関係のトラブルが、残念ながら本校でも複数件起きています。「ネット利用に関する鬼中五箇条(スマホ五箇条)」が実際に守られているかなどを確認したり、継続して呼びかけを行っていくなど、子どもが自ら課題意識を高められるような指導のあり方を考えていきます。				
進 路 指 導	1	学校は、立志マラソンや職業調べ、社会人に学ぶ会、マナーアップ講習会、チャレンジウィークなどの行事や活動を通して、職業観や勤労観を育て、夢や希望をはぐくもうとしている。学校は、夢を持つことや職業観・勤労観を育てようとしている。	保護者	95
	2	先生は、立志マラソンや職業調べ、社会人に学ぶ会、マナーアップ講習会、チャレンジウィークなどの行事や活動を通して、私たちが職業や働くことについて意識を高め、夢や希望をはぐくめるよう指導してくれる。	生徒	91
	3	学校は、高校調べや進路ガイダンス(高校説明会)、市内高校見学会、オープンスクールなどへの参加指導などを通じて、子ども達が進路を定められるようにしている。	保護者	97
	4	先生は、高校調べや進路ガイダンス(高校説明会)、市内高校見学会、オープンスクール参加など指導を通じて、私たちが自分の進路を決められるようサポートしてくれる。	生徒	91
いずれも90%を超える高い評価をいただいています。この項目で取り上げたものは学年や学校の行事です。今後は、キャリア教育の視点からも、社会的・職業的自立に向けて身につけさせたい力をはぐくめるよう、行事だけでなく、学級活動の時間と連動した学習のありかたを考えていきます。				
小 中 一 貫 教 育 ・ 地 域 と の 連 携	1	学校は、小中学校の学習のつながりを意識した授業をすすめたり、子どものよさや課題等の情報を共有して子どもの成長を支援したりするなど、小中一貫教育をすすめ、小中学校9年間で子どもを育てようとしている。	保護者	89
	2	先生は、小中学校の学習のつながりを意識した授業を工夫してくれたり、私たちのよさや苦手分野などの情報を小中学校の先生でやりとりしたりして、小中学校9年間で私たちを成長させようとしている。	生徒	86
	3	学校は、図書館ボランティアや部活指導、社会人に学ぶ会、マナー講習会などに講師をお願いし、地域の教育力を活用して、教育活動をすすめようとしている。	保護者	94
	4	先生は、図書館ボランティアや部活指導、社会人に学ぶ会、マナー講習会などで、地域の方に講師をお願いして協力してもらいたい、私たちの学習のプラスになるようにしてくれている。	生徒	93
藤岡市のすすめる小中一貫教育について、地域や保護者の皆様、子ども達にも理解が進んできた様子がうかがえます。今後も各教科で小学校とのつながりを意識した授業づくりを推進していきたいと考えます。また、本校では、様々な教育活動に地域の方にご協力をいただいています。大変ありがたいことです。協力していただいているのは特別活動の領域が多いので、教科等の学習で地域の皆様の協力を得た授業の可能性も今後は探っていきたいと思います。				

教頭の独り言

今回の学校評価の結果を見て、素直に感じたことを書きます。

保護者の皆様の評価と生徒の評価に分けて考えてみると、両者の数値に開きのある項目がいくつありました。学校公開について、挨拶について、進路指導についての項目です。学校公開については、保護者のほぼ全員が公開されているととらえてくださっています。子どもたちも9割以上が公開されているととらえています。それでも差があるのは、学校からの通知や、行事に保護者が足を運んでくださっていることを当たり前ととらえてしまっているからかも知れません。進路指導についての項目も同じような結果でした。生徒の数値が低いのは1年生の数値が低かったためです。これは、1年生はまだ1学期の段階では進路についての説明が十分に為されていなかったり、進路に向けての取り組みを知らないということが原因と考えられます。2年生、3年生は全員が進路指導のサポートをしてくれているととらえています。挨拶の項目については、指導をしているとほとんどの保護者がとらえています。これは、子どもたちが様々な場面で挨拶ができるからだと思います。ですが、子どもたちは違うとらえ方のようです。1年生は全員が指導してもらっているととらえています。中学に入学し、挨拶の大切さを指導されたからだと思います。2年生、3年生は挨拶をするのが当たり前になってしまっており、指導されているという気がそれほどしていないのではないかと思われます。裏を返せば、挨拶が定着していることの表れととらえることができます。これら3点については評価のポイントも高いので、結果としては良好だととらえています。

課題ととらえられるのは、保護者、生徒とも低い値が出ている「生徒に寄り添い、不安な悩みの解消に努めている」という項目です。これに関しては昨日の職員会議でも話題に挙げました。2学期は、来週から3年生の修学旅行、2年生のチャレンジワーク、1年生の高原学校という大きな行事を皮切りに、文化祭や校内マラソン大会、2年生の東京観劇教室、生徒会選挙、それらの行事の間には中間テストや期末テストが行われます。部活動では新人戦や駅伝大会が実施されます。さらに教員には、教育委員会の訪問が在り授業を見てもらわなければなりません。子どもたちだけでなく、教員も非常に慌ただしいのが2学期です。1学期の反省を生かし、どれだけ慌ただしくなっても、こどもにしっかりと目を向け、子どもの状態を把握し、気になることがあったり、気になる様子が見られたときにはどんどん声をかけていく。今まで以上に子どもの様子に目を配り、気を配り、教員間で情報の共有をし、こまめに対応をしていくようにしていきます。家庭でも子どもの様子を見て気になることがありましたら、些細なことでもよいので遠慮なく学校まで連絡をいただきたいと思います。学校と保護者と連絡を密に取り合い、子どもたちの不安や悩みの早期解決に向けて取り組めたらと考えています。是非ご協力を願います。

4月に赴任し1学期の様子を見ていましたが、子どもたちは落ち着いて授業や学校生活に取り組んでいると思います。時折生徒間のトラブルもありましたが、担任や学年職員が早めの対応をしていました。何かあったときの対応についてはできていますので、2学期は、何かありそうなとき、起こりそうなときの早めの声かけ、早めの対応を職員一同で目指していきたいと思います。

学校評価に関する質問は
藤岡市立鬼石中学校
TEL 52-2750
教頭 須田 佳明